教　科　名	国語	科目名	現代文Ｂ	単位数	３　単位
対 象 学 年	３年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し，適切に表現する能力を高めるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を深め，進んで読書することによって，国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を評価すること。 (イ)文章を読んで，書き手の意図や，人物，情景，心情の描写などを的確にとらえ，表現を味わうこと。 (ウ)文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (エ)目的や課題に応じて，収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成し，自分の考えを効果的に表現すること。才語句の意味，用法を的確に理解し，語彙を豊かにするとともに，文体や修辞などの表現上の特色をとらえ，自分の表現や推敲に役立てること。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして，自分の考えを深め，発展させている。	必要な情報を用い，相手や目的，課題に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査
教科書、教材など	東京書籍『精選現代文Ｂ　改訂版』，『精選現代文Ｂ学習課題ノート』（準拠ノート）， 常用漢字ダブルクリア，新国語便覧				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	評論１	現実と仮想 言語と記号	4 4	・脳科学や言語・記号論についての文章を読み，思索を深める。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	小説１	赤い繭	6	・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて，洞察力を養う。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
	6	評論２	他者の声　実在の声 鏡の中の現代社会	5 5	・他者や異文化世界についての文章を読み，さまざまな見方があることを知る。	
		期末考査		1		
	7		テスト見直し・解説	1		
			受検対策	2		
		漢字検定		1		
	8	随想	クレールという女	6	・個性的な内容の随想を読むことをとおして，感性や心情を豊かにする。	
	9	評論３	垂直のファッション，水平のファッション	7 5	・人間におけるファッションや文学の役割について，複数の視点から考える。	
2		評論４	グローバル化のゆくえ		・空間的，時間的に異なる世界について論じた文章を読み，思索を深める。	
		中間考査		1		
	10		テスト見直し・解説	1		
		評論５	サッカーにおける「資本主義の精神」	5	・現代の問題について考えを深め，筆者の主張について論理的に評価する。	
	11	【現代文】 センター試験演習		15	・センター試験８割をコンスタントに取れる力を身につける。	
	12	期末考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
3	1	【現代文】 センター試験演習		12	・センター試験直前対策をとおして，現代文を総復習し，確実に理解を深める。	
		学年末考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		国公立二次・私大演習		3		
備考：			合計	90		

教　科　名	国語	科目名	現代文Ｂ	単位数	３　単位
対 象 学 年	３年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し，適切に表現する能力を高めるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を深め，進んで読書することによって，国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を評価すること。 (イ)文章を読んで，書き手の意図や，人物，情景，心情の描写などを的確にとらえ，表現を味わうこと。 (ウ)文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (エ)目的や課題に応じて，収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成し，自分の考えを効果的に表現すること。才語句の意味，用法を的確に理解し，語彙を豊かにするとともに，文体や修辞などの表現上の特色をとらえ，自分の表現や推敲に役立てること。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして，自分の考えを深め，発展させている。	必要な情報を用い，相手や目的，課題に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査
教科書、教材など	三省堂『明解現代文Ｂ』〔改訂版〕（第３学年では第Ⅱ部を扱います），『明解現代文Ｂ学習ノート』〔改訂版〕，常用漢字ダブルクリア，国語便覧				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	随想一	春の小川の思い出	5	・幼い頃の思い出をとおして描かれる，友達との交流の様子を読み取る。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5		千年の時が与えてくれる安堵	4	・具体例とそれに対する考えとの関係を捉えながら，筆者の意図を捉える。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
	6	小説一	山椒魚	10	・閉じ込められた山椒魚の，外の動物との交流による思いの変化を読み味わう。	
		評論一	科学的というのはどういう方法か	6	・筆者の主張を捉え，科学という方法がどういうものであるのか考える	
	7	期末考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
			漢検対策	2		
			漢字検定	1	・漢字検定に向けて，自らの目標級に向かって準備をする。 ・漢字の読み書きを習得する。	
2	8	話す・聞く	自己ＰＲをしよう	2	・自分の将来に向けて必要な自己ＰＲの方法について興味をもち，自分の良さをアピールし伝えていく。	
	9	随想二	コモリン岬	6	・筆者のいう〈世界〉や〈聖域〉とは，どのようなものなのかを考える。	
	10		なまけもののコンプレックス	7	・なまけものの姿をとおして語られる文明批評の精神について考えを深める。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1	・主人公の生き方や人間の運命について考えを深める。	
	11	小説二	山月記	10		
		評論二	「自由」のはき違え	8	・私たちにとってあるべき「自由」について，考えを深める。	
	12	期末考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
3	1		かけがえのない未来	8	・「時間」や「未来」とは何かについての確認をとおして，「現在」の在り方を考える。	
		状況と人間	十五歳の東京大空襲	9	・戦争の状況を捉え，平和について考えを深める。	
		学年末考査	テスト見直し・解説	1 1	・十五歳の少年が経験した東京大空襲の記録を読み，自分の意見を文章で表現する。	
		書く	自分の意見を書こう	2		
備考：			合計	90		

教　科　名	国語	科目名	古典Ｂ	単位数	４　単位
対 象 学 年	３年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに，ものの見方，感じ方，考え方を広くし，古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)古典に用いられている語句の意味，用法及び文の構造を理解すること。 (イ)古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 (ウ)古典を読んで，人間，社会，自然などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。 (エ)古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい，作品の価値について考察すること。 (オ)古典を読んで，我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）			・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査

教科書、教材など	数研出版『古典Ｂ　古文編／漢文編』，古典Ｂ準拠ワーク　古文編／漢文編， 古典Ｂノート古文編／漢文編，体系古典文法，体系漢文，辞書アプリ，デジタルカラー国語便覧
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	【古文】 物語	源氏物語 『光源氏の誕生』	8	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，「一の皇子」と「玉の男皇子」に対する帝の接し方の違いをまとめる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5		『小柴垣のもと』	8	・和歌に描かれている情景を，表現に注意して読み，登場人物の状況をとらえる。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		【漢文】 史伝	史記『鴻門之会』剣舞 頭髪上指す	8 8	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，登場人物の心情を読み取る。	
	6		『四面楚歌』	4	・漢詩の表現と文章の関係をふまえ，登場人物の心情を読み取る。	
		期末考査		1		
	7		テスト見直し・解説	1		
	8		『項王自刎』	4	・項羽が江東に帰らなかった理由について，自分なりの考えを形成する。	
	9	【古文】 随筆(二)	方丈記 『ゆく河の流れ』	4	・「無常」に対する作者の考えを読み取り，共感したり，疑問に思ったり，思索したりする。	
2	10		徒然草 『あだし野の露』	4	・主題を表している一文を抜き出し，作者がそのように考える根拠について考察する。	
			『九月二十日のころ』	4	・作者が心ひかれていることを読み取り，共感したり，疑問に思ったり，思索したりする。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		【漢文】 文章	『春夜宴桃李園序』	4	・前段と後段の関係をふまえて，李白の人生観についてまとめる。	
	11	【古文・漢文】 センター試験演習		30	・センター試験８割をコンスタントに取れる力を身につける。	
	12	期末考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		【古文・漢文】 センター試験演習		20	・センター試験直前対策をとおして，古典を総復習し，確実に理解を深める。	
3	1					
		学年末考査		1		
				1		
		国公立二次・私大演習		4		
備考：			合計	120		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理Ｂ	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地 認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	地理的内容、現代社会的内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	地理的事象（地形、気候など）を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。	ワークノート、プリントの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	世界地理と現代の諸課題の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。
評価方法	授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。

教科書、教材など	「新詳地理Ｂ」（帝国書院） 「新詳高等地図　　帝国書院編集部編」（帝国書院） 「新編地理資料　２０２２」（とうほう）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	２部 現代世界の系統地理的考察 １学期 中間考査 １学期 期末考査 ２学期 中間考査 ２学期 期末考査 学年末考査	５節　世界の工業 １　工業の発達と種類 ２　工業の立地とその変化 ３　世界の工業地域 ４　現代世界の工業の現状と課題 ５　日本の工業 ６節　第３次産業 １　第３次産業の発展 ２　多様化する観光産業 ３　日本の観光産業 ７節　世界を結ぶ交通・通信 １　世界の交通網 ２　情報と通信の発達 ８節　現代世界の貿易と経済圏 １　私たちの生活を支える貿易 ２　国際分業の発達と貿易の地域間格差 ３　貿易の自由化と経済連携 ４　日本の貿易の現状と課題 ３章　人口，村落・都市 １節　世界の人口　２節　人口問題 １　世界の人口問題 ２　発展途上国の人口問題 ３　先進国の人口問題 ４　日本の人口問題 ３節　村落と都市 １　集落の成り立ち ２　村落の形態と機能 ３　都市の機能と生活 ４節　都市・居住問題 １　世界の都市・居住問題 ２　発展途上国の都市・居住問題 ３　先進国の都市・居住問題 ４　日本の都市・居住問題	28 26 35 16	○世界の工業について、工業の発達過程や種類、現状と課題を考察する。また、日本の工業の特徴と課題を考察する。 ○第3次産業について、その特徴や発展の背景，地域差などをとらえるとともに、世界と日本の観光業の特徴を考察する。 ○世界を結ぶ交通・通信について、交通機関の種類や特徴をとらえ、通信の発達による世界の一体化と地域差を考察する。 ○現代世界の貿易と経済圏について、進展する国際分業の現状と課題、経済連携の動向を考察する。また、現代世界における日本の貿易の現状と課題を考察する。 ○世界の人口について、その分布の特徴や動態、人口構成や人口転換を考察する。 ○人口問題について人口問題を大観し、発展途上国と先進国について、その要因や対策をとらえる。また、日本の人口問題の課題と解決への取り組みを考察する。 ○村落と都市について、その立地条件や発達の背景、村落や都市がもつ機能と人間生活のかかわりを考察する。 ○都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成 【資料活用の技能】年表や地図の作成 【思考・判断・表現】レポートの作成・発表 【知識・理解】小テストや定期考査
備考：			合計	105		

教　科　名	地歴公民	科目名	日本史Ａ	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	①近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して，現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるということ，歴史を学ぶ意義に気付く。 ②近現代の日本の歴史の展開を，年表や地図，その他の資料に基づいて学習し，近代社会が成立し発展する過程を理解する。 ③近代社会が成立し発展する過程を，地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して，ものごとを実証的な考察によってとらえる歴史的思考力を身につける。 ④主体的な歴史学習を通して，現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し，国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために，私たちが果たすべき役割について考える。				
学習内容の概要	(1)開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて理解する。 (2)第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までの我が国の状況について、国際情勢と関連付けて考察する。 (3)第二次世界大戦後の民主化と復興、国際社会への復帰、経済の発展と現代の日本について、世界の動向と関連付けて考察するとともに、我が国の課題と役割について考察する。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究することができているか。	我が国の歴史の展開から世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断できるか。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けているか。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノート状況、課題の提出を主として評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題および定期テストにより評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	「日本史Ａ　現代からの歴史」（東京書籍）（日Ａ３０８）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4	第１章 近代日本の形式	・国際情勢の変化 ・開国前の日本	10	・江戸時代末期における幕藩体制の変容といった国内事情と、欧米諸国のアジアへの進出などの世界的動向を関連付けて総合的に理解する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	5	中間考査	・ペリー来航と条約調印 ・幕末政争の展開			
	6		・大政奉還と王政復古 ・新政府の成立 ・文明開化	14	・開国以後、明治維新を経て欧米文化の影響を受けながら近代日本が近代国家として成立し急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて具体的に把握する。	
	7		・国境問題			
	8	第２章 東アジア世界の変動と日本	・日清戦争 ・日英同盟と日露戦争 ・韓国併合と東アジア	16	・条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行に着目し、我が国の対外政策の推移と近代産業の成立について理解する。	
2	9	期末考査	・産業革命と資本主義 ・桂園時代と社会問題			観察 発表 課題 ノート 考査
	10	第３章 二つの世界大戦と日本	・第一次世界大戦 ・パリ講和会議 ・東アジアの独立運動 ・大戦による社会変化 ・大正デモクラシー	15	・政党政治の推移と大衆文化の形成について考察するとともに、第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の大陸政策、国際的な協調体制の成立などに着目し、我が国の外交政策を考察する。	
	11	第４章 第二次世界大戦後の国際社会と日本	・満州事変 ・日中戦争 ・太平洋戦争	15	・第二次世界大戦が世界の諸国家・諸民族に未曾有の惨禍をもたらし、人類の文化と生活を破壊したことに着目し、平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	12	中間考査	・大戦後の世界と日本 ・東アジアの再編			
3		第５章 現代の世界と日本	・本土占領と戦後改革 ・冷戦下の講和 ・高度経済成長	10	・第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、我が国の再出発及びその後の政治の推移について考察する。	
	1	期末考査	・石油危機 ・自民党政権 ・経済大国と国際化	10	・独立後の日本を取り巻く国際情勢について着目し、平和条約締結と新しい外交関係の確立、日本経済の発展と国民生活の向上について考察する。	
		学年末考査		10	・現代社会の動向と日本の課題及び役割について考察する。	
備考：			合計	100		

教　科　名	公民	科目名	倫理	単位数	２　単位
対 象 学 年	第３学年特進	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	人間の尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人間の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	１　青年期の課題と、人間としての在り方生き方について、主に古今東西の諸思想の学習を通して、理解と思索を深める。 ２　主体としての自己の確立を目指して、特に人間の尊厳についての倫理的な考え方を学びとり、人格形成に努める意欲を高める。 ３　現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断の能力を育てる。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、これらに関わる課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断しようとする。	青年期における自己形成や人間としての在り方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有効な情報を適切に選択して、活用している。	他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題に評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	「　高校倫理　新訂版」（実教出版） 「アプローチ倫理資料PLUS2022」
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	第１編　青年期の課題と人間の自覚	１章　青年期の課題と自己形成 ①青年期の意義	7	・「人間とは何か」という根源的な問いから出発して、「第二の誕生」「マージナルーマン」等を学習し、青年期特有の不安を客観的に理解する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	6	中間考査	②青年期の課題	7	・青年期の課題をアイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる自己確立の視点をもつ。	
	7	期末考査		7		
2	8		2章人間としての自覚 ①　ギリシャ思想	8	・古代ギリシャの自然哲学の誕生を通して、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	9		②　キリスト教	5	・キリスト教の形成を学習し、厳格な道徳意識に立つ、一信教の特徴を理解する。	
			③　イスラーム	5	・キリスト教イスラームの思想的な関係を理解し、イスラム共同体の意義を考える	
		中間考査	④　仏教	5	・仏教が自己形成の実践であることを理解する。	
	10		⑤　中国思想 3章　日本人としての自覚	8	・孔子の説く人倫の道の特徴を理解し、漢字文化圏に共通する家族主義道徳について考える。	
			①　古代日本人としての思想	8	・日本の風土とそのなかで育まれた日本人の自然観の特徴、日本文化を理解する。	観察 発表 課題 ノート 考査
			②　　日本の仏教思想		・外来宗教である仏教の移入と展開について学習し、神仏習合した宗教の在り方を考える。	
	11 12	期末考査		１０		
3	1 2	センター演習 学年末考査	センター演習		・進路実現に向けて演習問題に取り組む。	
備考：			合計	70		

教　科　名	公民	科目名	現代社会	単位数	２　単位
対 象 学 年	第３学年特進・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	（１）現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 （２）現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的事象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	「改訂版　高等学校現代社会」（数研出版） 「本質が見えてくる　新版　最新現代社会資料集2022」（第一学習社） 「改訂版　高等学校現代社会整理ノート」（数研出版） 「Winning COM.-PASS　倫理・政経／現社の整理と演習　2022」（とうほう）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7	第2編　現代社会と人間としてのあり方生き方 中間考査 期末考査	2章　現代の民主政治と政治参加の意義 ②日本国憲法と基本的人権 ③日本の政治機構 ④政治参加と民主政治の課題	7 7 7 8	・日本国憲法の基本原理と政治参加の意義を理解し、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。 ・国会・内閣・裁判所の各役割や権限、課題について理解し、民主政治における個人と国家について考える。 ・世論形成及び政治参加の意義を認識し、政治参加や国民の重要な権利であると同時に義務であることに理解を深める。	観察 発表 課題 ノート 考査
2	8 9 10	中間考査	3章　現代の経済社会と経済活動のあり方 ①経済のしくみと市場機構 ②財政と金融 ③日本経済の発展と変化 ④豊かな生活と福祉の実現 4章　国際社会の動向と日本の役割	5 5 5 8	・現代の技術革新の問題点、企業及び市場経済のしくみや国民経済・景気変動について理解し、経済活動を多角的な視野でとらえることができる。 ・資本主義の発展と財政・金融の役割について理解を深め、豊かな社会の実現について考察する。 ・戦後日本の経済成長とプラザ合意・バブル崩壊後の日本が抱える問題点や課題を理解する。 ・消費者問題、雇用と労働問題、社会保障について理解し、個人と企業の経済活動における社会的責任について考える。	観察 発表 課題 ノート 考査
	11 12 1 2	第3編　ともに生きる社会をめざして 期末考査 センター演習 学年末考査	①国際政治の動向 ②国際政治の課題と日本の役割 ③国際経済の動向 ④国際経済の課題と国際協力 センター演習	8 １０	・国際社会の成り立ちとその発展過程を踏まえ、国際社会の仕組みについて理解させる。 ・戦争や紛争を避け、平和を維持するには国家間から民間レベルに及ぶ相互理解が必要であることを理解する。 ・冷戦後世界各地で経済の地域統合が進んでいる事実を具体的に理解し、地域統合が行われ、それが進展する原因を考察する。 ・国際経済についての理解を深め、国際的な相互依存関係が緊密化する一方で経済分野の問題が外交上の大きな問題となり、経済摩擦が生じていることを理解する。 ・進路実現に向けて演習問題に取り組む。	観察 発表 課題 ノート 考査
3						
備考：			合計	70		

教　科　名	公民	科目名	現代社会演習	単位数	２　単位
対 象 学 年	第３学年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	（１）現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 （２）現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的事象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	「改訂版　高等学校現代社会」（数研出版） 「新版　テーマ別資料　クローズアップ現代社会2022」（第一学習社） 「改訂版　高等学校現代社会　整理ノート　」（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	第2編　現代社会と人間としてのあり方生き方 中間考査	①民主主義の基本原理 ②日本国憲法と基本的人権 ③日本の政治機構 ④政治参加と民主政治の課題	8 9	・これまで学んだ現代社会の知識・諸問題を復習しながらこれからの進路実現に向け、様々な問題演習とプレゼンテーションや、自己表現の確立を目指し、シュミレーションしながら、学びを深める。	
2	6 7 8 9	第３章 現代の経済 期末考査 中間考査	第１節 経済のしくみと市場機構 第２節 財政と金融 第３節 日本経済の発展と変化 第４節 豊かな生活と福祉の実現	9 9	・進学・就職の各種試験に向け演習を中心に学ぶ	観察 発表 課題 ノート 考査
3	10 11 12 1	第４章 国際経済の動向と日本の役割 期末考査 学年末考査	第１節 国際政治の動向 第２節 国際政治の課題と日本の役割 第３節 国際経済の動向 第４節 国際経済の課題と国際協力	9 9 9 8	・国際法の意義や国際紛争の解決機関の役割が理解できる。 ・国際連合の組織と役割が理解でき，国連の現状と課題について考察できる。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れを理解する。 ・核軍拡から核軍縮への流れが理解できる。 ・民族紛争・難民問題など国際政治問題に関心を持つ。 ・国際社会で平和主義を掲げる日本の役割が認識でき，国際問題について自分なりの意見を持つ。 ・戦後の世界経済の流れが理解できる。 ・貿易や外国為替相場について，そのしくみが理解できる。 ・外国為替相場などのレートや市場の動向を理解し，円高などの為替相場の変動が経済に与える影響を考察する ・発展途上国の現状を知り，貧困や飢餓などの克服のために自らがどのようなことができるか考えることができる。 ・経済統合が進んでいる世界の現状を理解できる。 ・主体的に国際社会の課題を考えようとする自覚を育てることができる。 ・国際社会について自分なりの展望が持てる。	観察 発表 課題 ノート 考査 観察 発表 課題 ノート 考査
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅲ（特進）	単位数	5単位
対 象 学 年	第　3　学年	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	？？？
科目の目標	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　複素数平面　第2章　式と曲線　第3章　関数 第4章　極限　第5章　微分法　第6章　微分法の応用 第7章　積分法とその応用				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書，教材など	教科書　高等学校数学Ⅲ（数研出版），問題書 4プロセス数学Ⅲ（数研出版）， 参考書　Focus Gold 数学Ⅲ（啓林館）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第1章　複素数平面		17	複素数平面について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	第2章　式と曲線	第1節　2次曲線	14	平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
			第2節　媒介変数表示と極座標	11		
	6	１学期中間考査 第3章　関数		9	簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。合成関数や逆関数の意味を理解し，簡単な場合についてそれらを求める。	
	7	第4章　極限 １学期期末考査	第1節　数列の極限	11	数列や関数値の極限の概念を理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする	
			第2節　関数の極限	12		
2	8	第5章　微分法	第1節　導関数	8	関数の積及び商の導関数について理解し，関数の和，差，積及び商の導関数を求める。合成関数の導関数について理解し，合成関数の導関数を求める。三角関数，指数関数及び対数関数の導関数を求める。	
	9		第2節　いろいろな関数の導関数	8		
		第6章　微分法の応用	第1節　導関数の応用	11	導関数を用いて，いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり，いろいろな関数の値の増減，極大・極小，グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりする。また，それらを事象の考察に活用する。	
			第2節　いろいろな応用	7		
	10	２学期中間考査				
		第7章　積分法とその応用	第1節　不定積分	8	積分法についての理解を深めるとともに，その有用性を認識し，事象の考察に活用できるようにする。	
			第2節　定積分	11		
			第3節　積分法の応用	13		
	11	２学期期末考査 問題演習	問題演習	10		
	12					
3	1					
備考：			合計	150		

教　科　名	数学	科目名	数学演習	単位数	５単位
対 象 学 年	３年特進（文系）	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。				
学習内容の概要	数学ＩＡ・ⅡＢの全範囲から、基礎基本を確認しながら大学入試センター試験レベルまでを演習する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	数学ＩＡ・ⅡＢの全範囲に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学ＩＡ・ⅡＢの全範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	数学ＩＡ・ⅡＢの全範囲において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学ＩＡ・ⅡＢの全範囲における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習,復習の状況,課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書、教材など	問題集　リンク数学演習ＩＡ＋ⅡＢ受験編　a+b+c+d（数研出版） プリント教材
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	数と式 2次関数 集合と命題	問題演習	15	数学ＩＡの範囲の基礎知識を確かめ、各項目において最も典型的な問題から標準レベルの問題の解法を身につける。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5			20		
	6	図形と計量 データの分析 場合の数と確率		20		
	7	整数の性質 図形の性質		16		
	8			7		
	9	いろいろな式 図形と方程式 三角関数 指数対数関数		20	数学ⅡＢの範囲の基礎知識を確かめ、各項目において最も典型的な問題から標準レベルの問題の解法を身につける。	
	10	微分積分 数列 ベクトル		20		
	11			20		
	12			15		
	1			10		
	2			12		
	3					
備考：			合計	175		

教　科　名	数学	科目名	数学演習Ｓ	単位数	３単位
対 象 学 年	３年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	問題演習を通して数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、応用問題に対応できる力を身につけさせる。				
学習内容の概要	基礎的な内容を確認しながら、就職試験、医療系専門学校に向けた演習を行う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	基礎的な内容に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的･発展的に考えたりすることなどを通して、基礎的な内容における数学的な見方や考え方を身につけている。	基礎的な内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学Ⅰ、A、Ⅱの基礎的な内容における基本的な概念､原理･法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習,復習の状況,課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書、教材など	問題集　新編実用数学セミナー（浜島書店）　プリント教材 はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ標準編　　はぎ取り式練習ドリル数学Ａ標準編（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	問題演習	数の計算 割合 整式の計算	9	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、幅広い範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査	乗法公式 因数分解 整式の割り算	12		
	6		分数式の計算 無理数の計算	12		
	7	1学期期末考査	1次方程式 2次方程式 連立方程式 不等式	9		
	8		連立不等式			
	9	2学期中間考査	2次関数 図形と計量			
	10		面積・体積 図形総合 個数の処理			
	11	2学期期末考査	確率 式と証明 直線の方程式			
	12		円の方程式 指数・対数			
	1					
	2	学年末考査				
	3					
備考：			合計	105		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	3単位
対 象 学 年	第３学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	？？？
科目の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　複素数と方程式　　第2章　図形と方程式 第3章　三角関数　　第4章　指数関数・対数関数 第5章　微分法と積分法				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書，教材など	教科書　改訂版 新高校の数学Ⅱ（数研出版） 副教材 改訂版 新高校学習ノート 数学Ⅱ （数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第1章　複素数と方程式	第1節　式の計算	10	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5		第2節　複素数と方程式	17		
		１学期中間考査				
	6		第3節　式と証明	2		
		第2章　図形と方程式	第1節　点と直線	13	座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，　その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
	7	１学期期末考査				
2	8		第2節　円	10		
	9					
		第3章　三角関数	三角関数	10	角の概念を一般角まで拡張して，三角関数及び三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	10	２学期中間考査				
		第4章　指数関数と対数関数	第1節　指数関数	8	指数関数及び対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	11		第2節　対数関数	5		
		第5章　微分法と積分法	第1節　微分法	10	微分・積分の考えについて理解し，それらの有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
	12	２学期期末考査				
3	1	学年末考査	第2節　積分法	5		
	2					
	3					
備考：			合計	90		

教　科　名	理科	科目名	物理	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	物理308
科目の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	・電気と磁気　　・原子				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題

教科書、教材など	東京書籍『改訂 物理』（物理308）　教学社　体系物理　第６版
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7	・３編　電気と磁気 １章　電場と電位 中間考査 ２章　電流 ３章　電流と磁場 期末考査	電気的な力や空間の性質について，電場と電位という新しい概念で捉え，表現することができる。また，これらの知識を使ってコンデンサーの原理について考察。 電流回路の基本的な性質とその利用法を的確に判断し，目的に応じて適切な電流回路を自分で考案し，表現する。 電流がつくる磁場の基本的な性質を理解し，様々なパターンの電流による磁場の様子を考察し，表現する。また，モーターの仕組みから，電流と磁場との関係を見いだす。 電場と磁場との相互作用に興味・関心を持ち，それらを繋げる法則と実際の機器の仕組みの探究に意欲的に取り組もうとし、今日の人間生活と電磁波との関わりに興味・関心を抱き，それらの基本的な性質と使われ方について意欲的に探究する。	９ ９ １２ ６	・電荷が相互に及ぼし合う力や電場の表し方について，電気量の保存，電界の性質，電気力線について理解する。 ・導電性の紙を使って等電位線を調べる実験などを通して，電荷の移動と仕事の関係，電場と電位の関係，及び電位の基準点について理解する。 ・電場中の物体の様子やその内外の電場について理解し，箔検電器などの実験を通して，静電誘導，静電遮蔽（シールド），誘電分極について理解する。 ・充電と放電，電気容量，空気中に置かれた平行板コンデンサーなどの基本的な性質について，コンデンサーの接続における合成容量や，電気容量と誘電体との関係について理解する。 ・キルヒホッフの法則，抵抗率の温度変化，電球の電流特性などについて理解する。また，コンデンサーを含む電気回路や，半導体の特性について理解する。 ・直線電流，円形電流の中心，ソレノイドの磁場について	活動実験レポート板書発表宿題考査の成績を総合して評価
2	8 9 10 11 12	４章　電磁誘導と電磁波 中間考査 期末考査		４ １０ １０ １０ １０	・電流が磁場から受ける力を表す式やローレンツ力について理解する。 ・コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力，自己誘導，相互誘導，渦電流，交流発電機の仕組みなどについて理解する。 交流回路におけるコンデンサーやコイルのリアクタンス，抵抗とコンデンサーとコイルを直列につないだ回路のインピーダンスについて理解する。 ・ヘルツの実験の再現などの実験を通して，電磁波の基本的な性質，電気振動，電磁波の発生，及び電波の利用について理解する。 ・電子の発見に関する歴史的な実験にも触れながら，真空放電などの実験を通して，電子の比電荷，電気素量について理解する。 ・光電効果，光量子仮説，電子線回折，物質波について理解する。	
3	1 2 3	４編　原子 １章　電子と光 ２章　原子と原子核 学年末考査		８ １０ ７	原子の構造について理解する。また，スペクトルの波長に規則性があることや，ボーアの原子モデルなどを学び，原子が出す光のスペクトルと電子のエネルギー準位の関係について理解する。 ・質量とエネルギーの等価性，及び原子力発電のしくみについて理解する。クォークとレプトンなどの素粒子などについて理解する。 ・物理学の発展と成果が科学技術の基盤をつくり，それらが様々な分野において応用され，未来の社会の形成，未知の世界の探究に大きな役割を果たしていることを理解する。また，物理学の発展によってもたらされる新しい科学技術について，その恩恵とリスクについて理解する。 ・原子に関する探究活動を行い，学習内容の理解を深める	
備考：			合計	105		

教　科　名	理科	科目名	生物	単位数	３単位
対 象 学 年	第3学年特進	履修形態	選択授業	科目ｺｰﾄﾞ	生物　310
科 目 の 目 標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，生物学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	環境の変化に生物が反応していることについて観察，実験などを通して探究し，生物個体が外界の変化を感知し，それに反応する仕組みを理解する。 生物の進化の過程とその仕組みおよび生物の系統について，観察，実験などを通して探究し，進化についての考え方を身に付け，生物の多様性と系統を理解する。 生物の個体群と群集および生態系について観察，実験などを通して探究し，それらの構造や変化の仕組みを理解し，生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物･現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題

教科書、教材など	生物　310　「改訂版　生物」（数研出版） リードα生物＋生物基礎（数研出版）
授 業 形 態	選択授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第5章　動物の反応と行動	生物基礎で学習した神経系の復習と応用	5	まず，ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
	5	1. ニューロンとその興奮	神経細胞と感覚細胞の連携 観察＆実験　盲斑の検出	5 4	次に，受容器で受け取られた刺激（情報）が，神経系を介して，効果器へと至る経路を学習する。	
	6	2. 刺激の受容 中間考査	刺激と反応の仕組みを実験・観察	5	その際，刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に取り上げ，効果器に関しては筋肉を中心に取り上げる。	
	7	3. 情報の統合	いろいろな行動を視聴覚教材にて学習	5	動物の行動については，神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。	
	8	4. 刺激への反応 期末考査 5. 動物の行動		4		
2	9	第6章　植物の環境応答 1. 植物の生活と環境応答 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 環境の変化に対する応答	観察＆実験　種子の発芽と胚のはたらき	5 5 5 4	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 そのうえで，環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。	
	10	5. 花芽形成・結実の調節 中間考査		5		
	11	第7章　生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性 期末考査	バイオームに関する概念と環境との関連について他教科との連携を図る	5 5 5 5 5	個体群や生物群集について，それぞれの特徴を学習する。 その際，生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており，それぞれの個体群は，生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 次に，生態系における物質生産について学習する。	
3	12	第8章　生命の起源と進化 1. 生命の起源と初期の生物の変遷 2. 多細胞生物の変遷 3. 進化のしくみ	生命誕生の歴史から始まり現在の地球生命についての最新情報を調査する	5 5 5	生命の起源および生物の変遷を学習する。その際，生命の誕生や生物の変遷は，地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。生物の進化については，そのしくみを学習する。そのうえで，分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。	
	1	第9章　生物の系統 1. 生物の系統				
	2	生物の分類，生物の系統 2. 生物の多様性 生物の分類体系，細菌（バクテリア），古細菌（アーキア），真核生物（ユーカリア） 学年末考査	動物・植物それぞれの進化について観察記録等を閲覧する	5 4 4	生物の種類は多様であるが，それらが系統によって分類できることを理解する。	
備考：			合計	105		評価テスト

教　科　名	理科	科目名	化学	単位数	４単位
対 象 学 年	第３学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	化学313
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を育てるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	・物質の状態・物質の変化・無機物質・有機物質・天然有機化合物・合成有機化合物				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題

教科書、教材など	改訂版　化学(化学/313)　　化学〈化学基礎・化学〉基礎問題精講　４訂版(旺文社)
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	・粒子の結合と結晶の構造	・原子とイオン ・イオン結合とイオン結晶 ・分子と共有結合・共有結合の結晶 ・金属結合と金属・粒子の熱運動	15	・イオン式が書ける。 ・イオン結合の組成式が書ける。結晶構造が理解できる。 ・構造式、電子式が書け、共有結合の結晶の構造が理解できる。 ・金属結合の結晶格子の構造と、性質が理解できる。	活動 験レポート 板書 発表 宿題 考査の成績を総合して評価
		・物質の三態と状態変化	・分子間力と三態の変化 ・状態変化とエネルギー ・物質の種類と物理的性質		・分子間力と三態の変化の説明ができる。 ・状態変化とエネルギーの性質が理解できる。 ・物質の種類と物理的性質が理解できる。	
	5	・気体	・気体の体積・気体の状態方程式 ・混合気体の圧力・実在気体	15	・気体の体積・気体の状態方程式を使って計算ができる。 ・混合気体の圧力・実在気体の説明ができる。	
		・溶液	・溶解とそのしくみ ・溶解度・希薄溶液の性質 ・コロイド溶液		・溶解とそのしくみが理解できる。 ・溶解度・希薄溶液の性質が理解できる。 ・コロイド溶液に関する現象が理解できる。	
	6	・化学反応とエネルギー ・電池と電気分解 ・化学反応の速さとしくみ	・化学反応と熱・化学反応と光 ・電池・電気分解 ・化学反応の速さ・反応条件と反応速度 ・化学反応のしくみ	15	・化学反応と熱・化学反応と光の関係が理解できる。 ・電池・電気分解が理解できる。 ・化学反応の速さ・反応条件と反応速度の関係が理解できる。 ・化学反応のしくみが理解できる。	
		・化学平衡	・可逆反応と化学平衡 ・平衡状態の変化 ・電解質水溶液の化学平衡		・可逆反応と化学平衡が理解できる ・平衡状態の変化が理解できる ・電解質水溶液の化学平衡が理解できる	
	7			15		
2	8	・非金属元素	・元素の分類と周期表 ・水素・希ガス元素・ハロゲン元素 ・酸素・硫黄・窒素・リン ・炭素・ケイ素	10	・元素の分類と周期表が理解できる ・水素・希ガス元素・ハロゲン元素の性質が理解できる。 ・酸素・硫黄・窒素・リンの性質が理解できる。 ・炭素・ケイ素の性質が理解できる。	
		・金属元素（Ⅰ）	・アルカリ金属元素・２族元素 ・アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛		・アルカリ金属元素・２族元素の性質が理解できる。 ・アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛の性質が理解できる。	
		・金属元素（Ⅱ）	・遷移元素の特色・鉄・銅・銀・金 ・クロム・マンガン・金属イオンの分離		・遷移元素の特色・鉄・銅・銀・金の性質が理解できる。 ・クロム・マンガン・金属イオンの分離が理解できる。	
	9	・有機化合物の分類と分析 ・脂肪族炭化水素	・有機化合物の特徴と分類 ・有機化合物の分析 ・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素	15	・有機化合物の特徴と分類が説明できる。 ・有機化合物の分析、元素分析ができる。 ・飽和炭化水素の性質が理解できる。 ・不飽和炭化水素の性質が理解できる。	
		・アルコールと関連化合物	・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・脂肪族カルボン酸と酸無水物		・アルコールとエーテルの性質が理解できる。 ・アルデヒドとケトンの性質が理解できる。 ・脂肪族カルボン酸と酸無水物の性質が理解できる。	
	10	・芳香族化合物	・芳香族炭化水素・フェノール類 ・芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物 ・有機化合物の分離	15	・芳香族炭化水素・フェノール類の性質が理解できる。 ・芳香族カルボン酸の性質が理解できる。 ・芳香族アミンとアゾ化合物の性質が理解できる。 ・有機化合物の分離が説明できる。	
	11	・天然有機化合物	・天然有機化合物の種類 ・単糖類・二糖類・アミノ酸	15	・天然有機化合物の種類が説明できる。 ・単糖類・二糖類・アミノ酸の性質が理解できる。	
		・天然高分子化合物	・多糖類・タンパク質・核酸 ・高分子化合物の構造と性質		・多糖類・タンパク質・核酸の性質が理解できる。 ・高分子化合物の構造と性質が理解できる。	
	12	・高分子化合物の性質	・合成繊維・合成樹脂 ・高分子化合物と人間生活	15	・合成繊維・合成樹脂の性質が理解できる。 ・高分子化合物と人間生活が説明できる。	
3	1	・合成高分子化合物	・天然ゴムと合成ゴム		・天然ゴムと合成ゴムの性質が理解できる。	
			合計			

教　科　名	理科	科目名	地学基礎	単位数	３単位
対 象 学 年	第　　2学年	履修形態	選択授業	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，地学的に探究する能力と態度を育てるとともに，地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，地学的な見方や考え方を養う。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表、意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み・実験レポート	・テスト ・課題

教科書、教材など	地基３０８　「地学基礎　改訂版」　啓林館　　センサー地学基礎　改訂版
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1		第４部 宇宙の構成 第２章 恒星としての太陽の進化() 第１節 太陽と恒星 第２節 太陽の誕生と進化 中間考査 第３章 銀河系と宇宙() 第１節 銀河系とまわりの銀河 第２節 宇宙の姿 期末考査	太陽系の誕生について理解し，太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について学ぶ。 恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。 銀河系とまわりの銀河について学び，宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。	8 8	太陽系の天体の特徴と太陽系の誕生について調べようとする。 太陽系の各天体の違い、太陽系の誕生と惑星の成因について考える。 生命を生み出す地球の環境について考えることができる。 太陽の表面の現象について、太陽の活動とエネルギー源について考える。 望遠鏡で太陽像を投影し，太陽表面を観察することができる。 太陽系の姿に興味をもち，太陽系の天体の特徴と太陽系の誕生について調べようとする。 太陽系の各天体の違いについて。 太陽系の誕生を考えることができる。 生命を生み出す地球の環境について考えることができる。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
2		第５部 自然との共生 第１節 地球環境と人類 第２節 火山・地震災害と社会 中間考査 第３節　気象災害と社会 第４節 人間生活と地球環境の変化 期末考査	地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し，日本の自然災害と防災について学ぶ。	5 5 5		
3		入試対策復習講座　地学基礎 学年末考査		15		
	計			70		

教　科　名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対 象 学 年	第３学年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	生基315
科目の目標	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物･現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的･総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物･現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物･現象についての基本的な概念や原理･法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・ﾃｽﾄ ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験ﾘﾎﾟｰﾄ	・ﾃｽﾄ ・課題
教科書、教材など	啓林館　生物基礎 改訂版（生基315）「サンダイヤル生物基礎の基本マスター」啓林館			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	序章 探究活動の進め方 第１部 生物の特徴 第１章 生物の多様性と共通性 第１節 多様な生物の共通性 第２節 生物の共通の単位ー細胞 第３節 個体の成り立ちと多様性 第２章 細胞とエネルギー 第１節 生命活動とエネルギー 第２節 光合成と呼吸　中間考査	探究活動の方法について生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し，細胞および生物の構造について学ぶ。 生物の活動に必要なエネルギーの出入りと，生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	2 6 5 2	多様な生物に関心を持ち，知ろうとする意欲を持つ。 多様な生物の共通点がわかる。 細胞小器官の名称と働きを理解共通点と相違点を考えることができる。 光合成と呼吸の反応とエネルギーの転換を関連させて考えることができる。 ＤＮＡの特徴について調べ、ＤＮＡの構造に関心を持つ。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
	6 7	第２部 遺伝子とその働き 第１章 遺伝情報とDNA 第１節 生物と遺伝 第２節 DNAの構造 第３節 遺伝情報とゲノム 第２章 遺伝情報の複製と分配 第１節 遺伝情報の複製 第２節 遺伝情報の分配 第３章 遺伝情報とタンパク質の合成 第１節 遺伝子の発現とタンパク質 第２節 タンパク質の合成 第３節 遺伝情報の発現と維持　期末考査	遺伝情報をになう物質としての DNA の特徴について理解する。 DNA が複製され分配されることにより，遺伝情報が伝えられることを理解する。 DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	4 3 4 2 7	遺伝情報をゲノムととらえ、ゲノム医療など最新の医学的話題にも関心を持つ。 体細胞分裂と細胞周期が染色体の変化によって観察できることに関心を持つ。 セントラルドグマに関心を持つ。 ＲＮＡとタンパク質の構造，および転写と翻訳のしくみに関心を持つ。 遺伝子の発現の調節によって細胞の分化が起こることに関心を持つ。 体内環境の恒常性に関心を持ち，体液の成分，体液のはたらき，循環に興味を持つ。	
2	8 9 10 11 12	第３部 生物の体内環境の維持 第１章 体内環境と恒常性 第１節 体液とその循環 第２節 体液の調節 第２章 体内環境の維持の仕組み 第１節 自律神経系による調節 第２節 ホルモンによる調節 第３節 自律神経とホルモンの共同作用 第３章 免疫　中間考査 第１節 免疫とは 第２節 自然免疫 第３節 獲得免疫 第４節 細胞性免疫　期末考査	体内環境の恒常性が保たれているしくみを理解。 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。 免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。陸上には様々な植生が見られ，植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。	6 8 2	肝臓や腎臓が体液の恒常性に果たす役割を知ろうとする。体内環境の恒常性に自律神経がかかわっていることを調べようとする。多様なホルモンが特定の内分泌腺から分泌されていることに関心を持つ。 自律神経とホルモンが共同して恒常性を維持していることに関心を持つ。 免疫と生体防御反応、予防接種や感染症との関連も含めて，免疫に関する話題に興味を持つ。幹細胞や移植医療に注目。 植物の生活に影響を及ぼす環境要因を考察する意欲を持つ。	
3	1 2 3	第４部 生物の多様性と生態系 第１章 多様な植生と遷移 第１節 植物と環境のかかわり 第２節 さまざまな植生 第３節 植生の遷移 第２章　気候とバイオーム 第１節 世界のバイオーム 第２節 日本のバイオーム 第３章 生態系とその保全 第１節 生態系の成り立ち 第２節 物質の循環とエネルギー 第３節 生態系のバランスと保全 学年末考査	気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその特徴を学ぶ。 生態系では，物質が循環するとともにエネルギーが移動することを学び，生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	7 3 7 2	世界のバイオームや日本のバイオームの特色に関心を持つ。生態系を構成する要素の関係についてどのような観点で把握することができるか関心を持っている。食物連鎖、物質やエネルギーが移動することについて、生態系に与える人間生活の影響、グローバルな地球環境問題などについて関心を持っている。	
備考			合計	70		評価ﾃｽﾄ

教　科　名	保健体育	科目名	体育（男子）	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状態に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…体力測定、体つくり運動、ソフトボールを行う。 ２学期…フットサル、バレーボール、バドミントンを行う。 ３学期…バスケットボールを行う。 体育理論…各学期に行う。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、互いに協力する態度とともに安全に留意して学習に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の特性に応じた技術を身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、運動の仕方や理論について知識・理解している。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組みにて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。

教科書、教材など	なし
授 業 形 態	特進・調理科（合同）　１組・２組（単独）

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	体育理論	体育理論	4	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を復習する。	
	5	体力測定	基礎体力の測定	5	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
		体つくり運動	挨拶・姿勢・整頓・行進	3	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、挨拶、姿勢、整頓、行進などを行う。スムーズに、かつ安全に行動できるようにする。	
	6		体操・補強運動 体ほぐし運動	3 4	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたり、自重を使ったりして全身をリラックスして伸ばす。	
	7	球技 期末考査	ソフトボール	15	・キャッチボール、ゴロ、フライ捕球、送球の復習をする。 ・状況に応じた守備位置に立ち、ゲームを展開する。	
2	8 9	球技	サッカー （フットサル）	14	・パス、ドリブル、キックの復習をする。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
	10 11 12	球技 期末考査	バレーボール	21	・パス（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス）、サーブ、アタックの技術を復習し、三段攻撃やクイックなどの攻撃展開ができる。 ・空間を作り出すなどの攻防を展開する。	
			バドミントン	18	・サービス、各種のストロークの復習を行い、ゲーム展開につなげる。	
3	1	球技 学年末考査	バスケットボール	18	・空間を作り出す動きや、味方が作りだした空間へのパスなどを使ってゲーム展開ができる。	
備考：			合計	105		

教　科　名	保健体育	科目名	体育（女子）	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状態に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…体力測定、体つくり運動、バレーボールを行う。 ２学期…バドミントン、ソフトボール、サッカーを行う。 ３学期…バスケットボールを行う。 体育理論…各学期に行う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、互いに協力する態度とともに安全に留意して学習に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の特性に応じた技術を身に付けるとともに、その技能を高めて運動することができる。	運動の特性や学び方、技術の構造を理解するとともに、運動の仕方や理論について知識・理解している。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組みにて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。

教科書、教材など	なし
授 業 形 態	特進・調理科（合同）　総合１・２組（単独）

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	体育理論	体育理論	5	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を復習する。	
	5	体力測定	基礎体力の測定	7	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
		体つくり運動	挨拶・姿勢・整頓・行進	5	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、挨拶、姿勢、整頓、行進などを行う。スムーズに、かつ安全に行動できるようにする。	
	6		体操・補強運動 体ほぐし運動	5 5	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたり、自重を使ったりして全身をリラックスして伸ばす。	
	7	球技 期末考査	バレーボール	17	・パス（アンダーハンドパス・オーバーハンドパス）、サーブ、アタックの技術を復習し、三段攻撃やクイックなどの攻撃展開ができる。 ・空間を作り出すなどの攻防を展開する。	
2	8 9	球技	バドミントン	17	・サービス、各種のストロークの復習を行い、ゲーム展開につなげる。	
	10 11	球技	ソフトボール	17	・キャッチボール、ゴロ、フライ捕球、送球の復習をする。 ・状況に応じた守備位置に立ち、ゲームを展開する。	
	12	期末考査	サッカー	14	・パス、ドリブル、キックの復習をする。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
3	1	球技 学年末考査	バスケットボール	13	・空間を作り出す動きや、味方が作りだした空間へのパスなどを使ってゲームを展開できる。	
備考：			合計	105		

教　科　名	外国語科	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4
対象学年	３年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	1. 英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
学習内容の概要	1.事実に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 ２．説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ３．聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 ４．聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
評価方法	ＡＢＣ 授業態度・参加度・発表回数	ＡＢＣ 発表内容・聞き取り	ＡＢＣ 小テスト・宿題	（中間考査＋期末考査）の考査平均点×0.8 ユメタンテスト
教科書、教材など	Power On English CommunicationⅢ（東京書籍）・ワークブックⅢ ユメタン１（アルク）・プリント　、Next Stage英文法語法問題（桐原書店）			
授業形態	一斉			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	L1Emoji as a Universal “Language”		１５	１主語と述語動詞	
			ユメタン音読、単語練習	５		
		L2 How was the Olympic Symbol Created?	・本文内容理解	１５	２パラグラフと話題文 パラグラフ＝話題文＋支持文	
		L3 Zoo Dentist	・ワーク	１５	３文章の構成 序論、本論、結論の３つの部分から構成	
	5	L4 The First Four Minutes of an Encounter	・本文要約			
		L5A promising Surfer from Japan	・文法事項の確認、練習	１５	４ディスコースマーカー First/ firstly/ second/ secondly/ finally /lastly	中間考査
	6		・本文音読			
	7	L6Were Does Halloween Come from?	・小テスト（文法・単語）	１５	５ディスコースマーカー This is why… / that is why / this is because	期末考査
	8	L7 A Science Award that makes you laugh, and then think	・意見発表 ・リスニング	１５	６ハロウィーンの起源と歴史	
2	9	L8 A Nature Photographer in Alaska		１５	７イグ・ノーベル賞	
	10		・ユメタンテスト（各ユニット毎）		８写真家松本紀生	
	11	共通テスト対策		１５	９紅茶の歴史	中間考査
	12	総合演習	・週1回は英作文演習			
	1			１５		期末考査
	2	英作文演習				学年末考査
3	3					
備考：			合計	140		

教　科　名	外国語科	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	３
対 象 学 年	第３学年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	1. 英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
学習内容の概要	１．事実に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 ２．説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ３．聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 ４．聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	
評価方法	ＡＢＣ 授業態度・参加度・発表回数	ＡＢＣ 発表内容・聞き取り	ＡＢＣ 小テスト・宿題	（中間考査＋期末考査）の考査平均点×0.7

教科書、教材など	*VISTA English Communication II　New Edition*（三省堂） *VISTA English Communication II　New Edition workbook*（三省堂） ユメタン0（アルク）プリント
授 業 形 態	一斉

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	Lesson4 Nobel Prize Episo	ノーベル賞についてのこぼれ話・単語テスト・ワークブック	7	知覚動詞、tell ～to do	授業態度・加度・出物・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
	5	Enjoy Communication!2 How do we get there?	・単語テスト・ワークブック	10 10	英検過去問 交通手段や・所要時間についての表現 英検過去問	
	6	Look and Learn 2	練習問題・単語テスト・会話		・文法のまとめ（分詞のいろいろな用法・tell～to do）	
	7	Reading Skill 2 期末考査		9	・スキャニングにより、必要な情報を素早く見つける。	
2	8	Lesson 5 Flowers in the Tomb	会話・プリント・小テスト	8	・ハワード・カーターがツタンカーメンの墓で最も美しいと思った物は何か。	
	9	Take a Braek!3	ワークブック イディオムクイズ	10	・使役動詞・関係代名詞 what の使い方に慣れる ・英語のイディオムを知る。	
	10	Lesson 6 Becoming the Best 中間考査 Enjoy Communication!3	会話・プリント・小テスト ワークブック	10	・錦織圭が世界で活躍する秘訣とは。 ・疑問詞と不定詞の組み合わせ、seem の用法に慣れる。	
	11	Where Can I Get a Ticket?	会話・プリント・小テスト	10	・切符購入の場面でのコミュニケーション活動	
	12	Look and Learn 3 Reading Skill 3 期末考査	練習問題・単語テスト・会話	8	・文法のまとめ（使役動詞・関係代名詞 what/ how to） ・未知語の意味を推測する。	
	1	Lesson 7 The Galapagos Islands 学年末考査	会話・プリント・小テスト・ワークブック	8	・今、ガラパゴスに起こっていることは何かを知る。 ・現在完了形・現在完了進行形、形式目的語 it	
			合計	90		

教　科　名	外国語科	科目名	英語表現II	単位数	3
対 象 学 年	第３学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	1. 英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。				
学習内容の概要	１．与えられた条件に合わせ、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 ２．主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ３．聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、それを聞いて質問したり、意見を述べたりする。 ４．多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
評価方法	ABC 授業態度・参加度	ABC 発表内容・聞き取り	ABC 小テスト・インタビューテスト、宿題プリント	（中間考査＋期末考査）の考査平均点×0,8

教科書、教材など	*NEW FAVORITE English Expression II*（英 II 317）（東京書籍） 英語問題集
授 業 形 態	一斉

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	Lesson 6 My Future Career	リスニング・ライティング 練習問題・小テスト	7	・比較を用いた表現を見につける。 ・将来の夢について英文を書き、発表し、意見交換する。	授業態度・加度・出物・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
	5	Lesson 7 Pets	リスニング・ライティング 練習問題・スピーチ、小テスト	1 10	・受け身を用いた表現を身につける。 ・ペットについての意見を英文で書き、発表し、意見交換する。	
	6	Lesson 8 A Little Escape	リスニング・ライティング 練習問題・スピーチ、小テスト	10	・関係詞を用いた表現を身につける。 ・行ってみたい場所について英文を書き、発表し、意見交換する。	
	7	期末考査		1		
2		特別授業	プレゼン制作	9		
	8	共通テスト英語単元別問題集・プリント	リスニング・ライティング 練習問題・練習プリント	4	・グループごとに鳥取県の魅力を発信するプレゼンをパワーポイントで作成し、発表する。	
	9	中間考査		1		
		共通テスト対策問題集	センター試験対策 リスニング、リーディング	11	・共通テスト対策演習　リスニング・リーディング	
	10			10		
	11			11		
	12	期末考査		1 8		
	1			6		
備考：			合計	90		

教科名	情報	科目名	情報の科学	単位数	３
対象学年	３年生総合コース	履修形態	必修		
科目の目標	・高度情報化社会へ向けて、情報の質と量の多様化が進む中、正しいものもあれば、価値のないものもあるれらの中から意思決定に必要な情報を、短時間で効率よく、的確につかめることができるよう目指す。 ・国際化の時代において、常に新しい環境で新しい人々との関係を作っていくうえで、お互いに相手のことをよく知り、よく理解し合うことが必要である。そのために、自分のことを相手に短時間に印象知ってもらえるよう目指す。				
学習内容の概要	パソコンの基本、ワープロ・表計算・プレゼンテーションを学ぶ（３単位）				
評価の観点 評価の方法	（１）関心・意欲・態度　（授業態度・実習課題提出・出席状況） （２）見方や考え方　（前期・後期の期末時に実技試験を実施。） （３）表現･処理　（各資格試験を希望者は受験する。） （４）知識･理解　（定期考査・(実技・筆記試験を実施)）				
教科書･教材	３０時間でマスター Ｗｏｒｄ ２０００　３０時間でマスターＥｘｃｅｌ ２０００ ３０時間でマスターＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ ２０００ 情報の科学、ビジネス文書検定検定問題集				
授業形態	実習授業				

学期	月	項目	学習内容	時間	評価規準
1	4 5 6	ワープロ（Word）の復習。	２年生で習得したタイピング・文書構成（資格３級レベル）の確認と復習。 表の作成を習得する 全商ビジネス文書検定　３級・２級を受験	３０	定期的に単元テストを行い理解度を高める。
	7	表計算（Ｅxcel）の演習。	データを入力、ワークシートの編集 列の挿入・削除、移動・コピー、 データの修正、オートフィル機能 関数の活用、グラフの作成　データを入力 ワークシートの編集 列の挿入・削除、移動・コピー データの修正、オートフィル機能 関数の活用、グラフの作成　　等	３６	定期考査（１学期末考査）でワードを習得とビジネス文書の構成を理解する。
2	9 １０	データ入力の基礎 基本的なワークシートの編集。		２４	
		卒業レポートの作成	※自分でテーマを探し、テーマに沿ってレポートを完成させる。 ※使用するソフトはパワーポイント・エクセル・ワードなど生徒自身が使いやすいものを使用、構成も各自おまかせ、写真、画像、表、フなどの編集も可能 但し、著作権、肖像権など法律をはじめモラルも考えながら編集に取り組む。 発表に向けてリハーサルを実施。 クラスで発表を実施		定期考査（２学期末考査）で理解度認する。 クラスの中で時間があれば発表会を行う。
	１０ 下旬 １２ 中旬				

教　科　名	国語表現	科目名	国語表現	単位数	2 単位
対 象 学 年	3年総合(選択)	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)目的や場面に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり、書いたりする。 (イ)話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする。 (ウ)主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方を工夫して書く。 (エ)書いた文章を互いに読みあい批評することにより、自分の表現や推敲に役立て、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。				

科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして，自分の考えを深め，発展させている。	必要な情報を用い，相手や目的，課題に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。	言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・記述の確認（ノート，ワークシート）	・学習活動における発言内容や態度 ・記述の確認（ノート，ワークシート）	・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・小論文などの作成した文章） ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査

教科書、教材など	大修館『国語表現』〔改訂版〕，『国語表現基礎練習ノート』
授 業 形 態	一斉授業

年 間 授 業 計 画

学期	月	単　元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価
1	4	1　書いて伝える	1整った文を書く	2	・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。	定期考査の成績・提出課題・小論文・小テストなどを総合的に評価
			2わかりやすい文を書く	4	・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 ・読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。	
	5		3文のつなぎ方	2	・接続表現の種類と働きを理解する。	
	6	2　小論文入門	1小論文とは何か	8	・小論文の基本的な書き方を理解し、筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。	
			2反論を想定して書	2	・反論を想定して書く構成を理解し、小論文を書く。	
				2	・資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。〃	
	7		3統計資料を読み取って書く	2	・さまざまな種類のグラフの特徴を知り、その読み取り方を理解し、自分の意見を明確にして小論文を書く。	
			自分を見つめて	2	・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。	
				2	・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。〃	
2	8		効果的な自己PR	4	・自分の特長を端的に表現した、キャッチフレーズを作る。 ・事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。	
			将来の自分を考えよう	2	・就きたい職業に就くために必要なことを調べる。	
				4	・「将来の自分」について文章にまとめる。	
	9	3　自己PRと面接	志望動機をまとめよう	4	・志望先について情報を集め、説得力のある志望動機を書く。	
			相手や場面に応じた会話		・場面にふさわしい言葉遣いを考える。	
	10		面接にチャレンジ	6	・適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。 ・質問に対して、具体的で説得力のある答え方をする。 ・具体的なシーンを想定し、場面にあった言葉遣いや態度を確認する。〃	
		4　会話・議論・発表	議論して結論を出す	2	・司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをする。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。	
			通信文を書き分ける	2	・さまざまな通信文の形式を理解する。	
	11		手紙のいろいろ〃	2	・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	
			電話を使いこなす	2	・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや応対のしかたを理解する。	
			詩歌を楽しむ	2	・さまざまな詩歌を読み、味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。	
				2	・さまざまな詩歌の鑑賞をふまえて、表現を工夫しながら詩を創作する。	
	12		言葉で遊ぶ	2	・さまざまな言葉遊びを知り、おもしろさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。	
				4	・言葉遊びの仕組みやおもしろさを理解し、オリジナルの作品を作る。	
3	1		エッセイを書こう	2	・読んだエッセイを参考にして、効果的な表現を工夫しながら自分でエッセイを書く。〃	
			パロディー物語を書こう	4	・「吾輩は猫である」のパロディー物語を読み、表現上の特徴をまねて、パロディー物語を書く。	
備考:			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学演習Ｋ	単位数	１単位
対 象 学 年	３年総合	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	問題演習を通して数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、応用問題に対応できる力を身につけさせる。				
学習内容の概要	基礎的な内容を確認しながら、就職試験、医療系専門学校に向けた演習を行う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	基礎的な内容に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、基礎的な内容における数学的な見方や考え方を身につけている。	基礎的な内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学Ⅰ、A、Ⅱの基礎的な内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習,復習の状況,課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書、教材など	問題集　新編実用数学セミナー（浜島書店）　プリント教材 はぎ取り式練習ドリル数学Ⅱ標準編　　はぎ取り式練習ドリル数学Ｂ標準編（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	問題演習	数の計算 割合 整式の計算	5	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、幅広い範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査	乗法公式 因数分解 整式の割り算	10		
	6		分数式の計算 無理数の計算			
		1学期期末考査	1次方程式			
	7		2次方程式 連立方程式 不等式			
	8		連立不等式			
	9			10		
		2学期中間考査	2次関数 図形と計量			
	10		面積・体積 図形総合 個数の処理			
	11	2学期期末考査	確率 式と証明 直線の方程式			
	12		円の方程式 指数・対数	8		
	1					
		学年末考査				
	2					
	3					
備考：			合計	33		

教　科　名	福 祉 科	科目名	福祉基礎		単位数	２単位
対 象 学 年	３年総合	履修形態	選択履修	科目ｺｰﾄﾞ		
科 目 の 目 標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・ 能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているか考える力を身に付ける。 (2)現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉の基本的な見方や考える力を身に付ける。 (3)対人援助のあり方や社会福祉制度の基礎的な理解のもと、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付ける。					
学習内容の概要	社会福祉制度の基礎的な理解のもと対人援助のあり方、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているかを学ぶ。					

科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	社会福祉について自ら思考を深め，多面的・多角的に考察している。	社会福祉について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	授業の取り組み及び定期考査、提出物により評価する（**ノート，プリント，ワークシート**）	授業の取り組み及び定期考査、提出物により評価する（**ノート，プリント，ワークシート**）	授業の取り組み及び定期考査、介護演習により評価する（**ノート，プリント，ワークシート**）	授業の取り組み及び定期考査、提出物により評価する（**ノート，プリント，ワークシート**）
教科書、教材など	実教出版　社会福祉基礎			
授業形態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 (活動・演習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)
1	4・5	第1編社会福祉の理念と意義 中間考査	第 1 章 生活と福祉 第 2 章 社会福祉の理念 第 3 章 人間の尊厳と福祉社会 の創造	13	○身近な生活課題から社会福祉について捉え、その理念と意義、役割について理解する。高齢社会における社会福祉の在り方と憲法を基礎とした基本的人権や様々な制度を、社会生活における人間の尊厳と合わせて考える。
	6・7・8	第2編社会福祉の歴史と福祉社会の課題 期末考査	第 1 章 諸外国における社会福祉 第 2 章 日本における社会福祉	16	○社会福祉思想の歴史的展開から、諸外国における慈善組織化運動や、エリザベス救貧法などの諸制度と、日本の救護法から現在諸制度について、日本と諸外国を比較しながら発展について理解する。
2	9・10・11・12	第3編生活を支える社会福祉･社会保障制度 中間考査 第4編人間関係とコミュニケーション 期末考査	第 1 章 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 第 2 章 子ども家庭福祉 第 3 章 障がい者福祉 第 4 章 高齢者福祉 第 5 章 生活支援のための公的 扶助 第 6 章 国民生活を支える社会 保障制度 第 1 章 コミュニケーションの基礎 第 2 章 援助における人間関係の形成 第 3 章 社会福祉援助活動の概要	26	○生活を支えるための社会保障制度の意義や、基本的な仕組みについて取り扱い、社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景について学び、各社会福祉分野の施策や現状、課題などについて理解する。 ○人間関係や信頼関係の構築にはコミュニケーションが非常に大切であることや、受容や共感 など援助者としてのその方法を理解し、チームケアにおけるコミュニケーションの重要性や情報技術を利用した方法や言語・非言語などの 様々な手段について触れ、援助者としての専門性を高められる。
3	1・2・3	第5編地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 期末考査	第 1 章 地域福祉の進展と地域の将来 第 2 章 多様な社会的支援制度 第 3 章 社会福祉の将来と福祉の担い手	15	○地域福祉の重要性が求められる中、ボランティアの定義やバリアフリーを目指したまちづくりの価値、地域福祉活動の中で住民が担っている役割について理解する。また、地域医療や 権利擁護など地域生活を支える仕組みについても学び、将来社会福祉の担う役割と、その担い手となる人材について考えられる。
	「備考：3年　福祉基礎」		合　計	70	

教　科　名	福 祉 科	科目名	介護演習	単位数	２単位
対 象 学 年	３年総合	履修形態	選択履修	科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	介護の意義及び高齢者と障がい者福祉における介護の担う役割を理解し、介護に関する 基礎的な知識と技術を習得するとともに、介護を適切に行う能力と態度を身につける。				
学習内容の概要	○介護に関する知識や技術を断片的に捉えるのではなく、福祉施設の見学、演習、ボランティア活動などを通して、活用できる知識と技術を身に付けさせる。 ○介護福祉においては、知識と技術の習得にとどまらず、社会福祉関連の職業に従事擦する者として求められる福祉観や倫理観を高めさせる。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	超高齢社会の諸問題を取り上げ、これに追随する諸課題に目を向けさせるとともに、解決策を思考する。	福祉課題の解決策を考えるとともに、人間としての尊厳を守る生き方を極めたい。	介護の現場を検証させることにより、理論どおりにはいかない人間社会の複雑さが見えてくる。	超高齢社会の諸問題に目をむけ、法律・制度等に解決策を見出すのではなく、人間としての資質・生き方に解決策を見出させる。
評価方法	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する（ノート，プリント，ワークシート）	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する（ノート，プリント，ワークシート）	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する（ノート，プリント，ワークシート）	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する（ノート，プリント，ワークシート）
教科書、教材など	実教出版　介護福祉基礎			
授業形態	一斉授業・介護演習			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容(活動・演習等)	時間	
1	4・5	第４編介護福祉の担い手 中間考査	第１章　介護従事者をとりまく状況 １．介護福祉士の養成 ２．介護人材の確保と定着 ３．介護従事者のキャリアアップ研修 ４．介護従事者の社会的地位向上 第２章　介護従事者の役割 １．介護の役割、介護福祉士の役割 ２．在宅介護従事者の役割 ３．施設介護従事者の役割	13	○介護福祉士のきっかけとなった社会的背景を理解また、資格の取得方法や養成の現状について理解す ○介護の役割について考察する。また介護の担い手である介護福祉士に求められる資質と、専門性の確立の必要性について理解する。
	6・7・8	第５編介護福祉サービスの概要と連携 期末考査	第１章　介護福祉サービスの概要 １．介護サービスの利用方法 ２．介護サービス提供の場の特性（在宅） ３．居宅介護サービス（福祉系） ４．居宅介護サービス（医療系） ５．介護サービス提供の場の特性（施設） ６．施設サービス ７．障害者支援サービス ８．障害者支援サービスの実際	16	○介護保険制度のサービス利用までの流れ、ケアマネジメントについて理解する。 ○各種の居宅サービスについて理解する。 ○施設サービスの制度化の背景を理解し、施設サービスを提供する施設の種類を把握する。
2	9・10・11・12	中間考査 第６編介護における安全確保と危機管理 期末考査	第２章　介護における連携 １．多職種連携とチームケア ２．介護と医療 ３．介護支援専門員とケアチームの連携 ４．介護従事者とボランティアとの連携 第１章介護における安全確保と事故対策 １．介護におけるリスクマネジメント ２．事故予防対策 ３．転倒・転落事故 ４．身体拘束の禁止について ５．防災対策	26	○介護に関わる様々な職種について理解し、チームケアの目的と意義について考察する。 ○福祉施設で想定されるリスクマネジメントの方法を理解する。また介護事故の特性と対応の基本について理解する。 ○身体拘束が原則禁止となった背景を理解し、身体拘束をしない介護の３つの原則について考察する。また、やむを得ず身体拘束をする場合の手続きについて理解する。
3	1・2	第６編介護における安全確保と危機管理 期末考査	第２章　感染対策 １．感染症の理解 ２．感染症の予防対策 ３．介護現場で出会うことの多い感染症 第３章　介護従事者の健康管理 １．健康管理の重要性 ２．心の健康管理 ３．からだの健康管理 ４．労働安全衛生に関する知識 ５．家族介護者の健康	15	○感染症が発病するまでのプロセスを理解する。 ○介護従事者の自己の健康管理の大切さとその方法を理解する。
			合　計	70	

教　科　名	保健体育	科目名	専攻実技	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年	履修形態	選択必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的，計画的な実践を通して，専門的な知識・理解を深めるとともに技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし，自己の状況に応じて体力の向上を図る能力 を育て，公正，協力，責任，参画などに対する意欲を高め，生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…トレーニング実技、ソフトボール、ゴルフを行う。 ２学期…ゴルフ、バスケットボールを行う。 ３学期…卓球を行う。 各学期でスポーツ理論を行う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習を主体的に取り組もうとする。	豊かなスポーツライフの現実を目指して、自己や仲間の課題解決に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現するための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けるとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。
教科書、教材など	なし			
授 業 形 態	２クラスでの合同授業（男女）			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	スポーツ理論	トレーニング計画 トレーニング理論	6	・運動の特性に応じたトレーニング方法、トレーニング計画の知識を身に付け、豊かなスポーツライフをおくる。	授業態度・実技テスト・期末考査を総合して評価する。
	5	トレーニング実技	筋力・持久力・走力・柔軟性・バランス感覚	10	・専門的なトレーニング、最新のトレーニング方法を実際に行い、自身や仲間の体力を高めるための運動を合理的に行えるようにする。	
	6	球技	ソフトボール	10	・状況に応じたバット操作と打球に応じた進塁ができる。 ・安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる。	
	7		ゴルフ	25	・クラブの握り方、スタンス、スイングの修得を行う。 ・状況に応じたクラブの使い分けができ、段階的な技能を身に付けることができる。 ・紳士のスポーツとしてのルールやマナーを学ぶ。	
2	8	球技	バスケットボール	12	・ドリブル、パス、シュートの復習を行う。 ・状況に応じたポール操作と仲間と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	
	9					
	10	校外実習	ゴルフ	12	・運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、緑あふれる自然の競技場でプレーし、紳士のスポーツとしてのルール・マナーを学ぶ。	
	11	球技	卓球	14	・サーブ、スマッシュ、バックハンド等基本技術を身に着ける。 ・技術を向上させながら、試合展開を学び実践に生かす。	
	12					
3	1					
	2					
	3					
備考：			合計	87		

教　科　名	家庭学科調理科	科目名	公衆衛生	単位数	１単位
対 象 学 年	第３学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	健康の維持・増進に寄与する食生活の重要性を認識させ理解させる				
学習内容の概要	我が国の健康の現状とともに、調理師法、健康増進法及び食育基本法などの健康づくりや食生活の向上に関する法規や関連する対策及び活動について理解することを通して、調理師が果たすべき役割を理解する				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた自身の健康管理を把握、認識し、理解する	事象を考査し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保健全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係性を理解し、知識を身に付けている
評価方法	授業への取り組みの状態の観察、考査	授業への取り組みの状態の観察、考査	授業への取り組みの状態の観察、考査	授業への取り組みの状態の観察、考査
教科書、教材など	公衆衛生学（全国調理師養成施設協会）			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	環境と健康 生活環境 中間考査	現代の生活環境と衛生	15	生態系、食物連鎖などの現代社会の環境と衛生を学び理解させる	観察 考査
	6 7	期末考査				
2	9	中間考査				
	10	環境条件	大気、水、住居、廃棄物放射線	10	人間の体内水分量や水道法、地球の水についてまた地球の今の環境条件について学び理解させる	観察 考査
3	11 12	期末考査				
	1 2 3	環境汚染と対策 学年末考査	環境汚染の問題と対策	10	現代の公害や環境汚染について学び対策を考え理解させる	観察 考査
備考：			合計	35		

教　科　名	家庭科	科目名	食品衛生	単位数	２単位
対 象 学 年	第３学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらし、場合いによっては生命を左右することがあるためこれを認識し理解する				
学習内容の概要	食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。	事象を考察し，表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け，よりよく問題を解決する。	食品衛生における基本的な概念、微生物の知識を得、調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査

教科書、教材など	食品衛生学（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	ウイルス性食中毒	ノロウイルス食中毒		ウイルスによる感染から予防．処理の仕方を学び	観察
		p 76～	ウイルス性食中毒の	25	理解させる	考査
	5		予防			
	6	中間考査				
	7					
		期末考査				
2	9	自然毒食中毒				観察
			動物性．植物性自然毒	30	自然界にある自然毒の原因．症状．種類などを	考査
		中間考査	食中毒の予防		学び理解させる	
	１０					
3	１１	食品安全対策				
		期末考査	安全対策とは			
	１２		対策に関わる法律．行	15	公衆衛生の視点で制定された食品衛生法を学び	
			政		行政がどのように関わっているか理解させる	
	1					
	2					
		学年末考査				観察
	3					考査
備考：			合計	70		

教　科　名	家庭科	科目名	食品	単位数	１単位
対 象 学 年	第３学年	履修形態	一斉	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	「調理師」を名乗る人には、それだけ重要な社会的使命が与えられていることを理解する。				
学習内容の概要	食品の特性を知り、美味しくて安全な食事を提供し、健康の維持増進をはかる。食の安全を確保する。調理技術や調理様式を受け継ぎ、さらに新たな調理法を創造し、文化継承の役割を担う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保健全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	質問内容、レポート提出	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価

教科書、教材など	２　食品と栄養の特性（社会法人全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	食品の特徴と性質	植物性食品とその加工品	10	穀類	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査			いもおよびでんぷん類 砂糖および甘味類	
	6				豆類、種実類、野菜類	
	7	期末考査			果実類、	
	8			15	きのこ類、藻類	
	9		動物性食品とその加工品		魚介類、食肉類	
	10	中間考査			卵類、乳類	
	11		その他の食品		油脂類、菓子類、嗜好飲料類、調理料および香辛料類 調理加工食品類	
	12	期末考査			ゲル状食品、特別用途食品、保健機能食品	
	1		食品の加工と貯蔵	10	食品の加工、食品の貯蔵	
	2		食品の生産と流通		食品の国内生産と輸入 食品の流通	
	3	学年末考査				
備考：			合計	35		

教　科　名	家庭科	科目名	総合調理実習	単位数	３単位
対 象 学 年	第３学年調理	履修形態	必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	衛生管理、献立・調理、食事環境を総合的に学ぶことにより、調理師の業務全体を理解する。 集団調理の基本技術を習得する。				
学習内容の概要	調理施設、設備について学び、食べる側、作る側、サービス側集団調理実習 さー				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	実習に向かう態度や抗議中の姿勢をもっている。	実習中に味の濃い薄いについて調整しているか。 進行状況を把握し、時間をみて動けている。	お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく、商品価値のあるものが作れている。	お客様の満足度の高い料理を提供しようと真摯に調理に向かおうとする姿勢を知識や技術を探求し、行程や強調性をもてている。
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	盛りつけ方や作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 定期テストにより評価する

教科書、教材など	新調理師養成教育全書　必修編　総合調理実習
授 業 形 態 授　　業　　形　　態	一斉、班別学習

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	①　集団調理の施設、設備について	ＨＡＣＣＰや調理施設について	８	・一、二年時の復習	授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
	5	②　大量調理の特性と調理技術	大量調理の特徴や調理技術について	８	・下処理や下味のつけ方を適切に理解する。	
	6	期末考査 ③　接客サービス	敬語や丁寧語について	８	・お客様に対する言葉使いや接客者としての意識を高めプロとして使える知識を習得する。	
	7	④　食卓の演出	快適な食事環境について	８	・飲食店にあった音楽、インテリアなどの適切な環境作りを理解する。	
2	8					
	9	⑤　弁当販売やレストラン開業にむけて	弁当作り、大量調理実習	３０	・お金をいただき調理することのむずかしさを理解する。	
	10					
	11					
	12	期末考査 ⑥　飲食店開業計画	開業の心構え 飲食店の基本戦略について 開業に向けての流れ	２３	・自分の夢を反映させたお店作りを考え、現実的に計画し飲食業を取り巻く環境を理解し安易に開業したのでは取り返しのつかない結果を招くことがあるということを理解する。	
3	1	⑦　総合調理実習まとめ		２０	学んできた事を復習し理解する。	
	2	学年末テスト				
	3					
				105		
備考：			合計			

教　科　名	家庭科	科目名	調理実習	単位数	１単位
対 象 学 年	第３学年調理	履修形態	必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	1，2年で学んできた事をより実践的に総合的にマスターします。お弁当の販売やレストランの運営などを想定し自分の進路や夢に向かって調理師としての自覚を持ち調理を楽しむ。				
学習内容の概要	お客様に料理を提供する事をしっかりと考え、より素早く、丁寧に料理をする事を学ぶ。 就職に向けそれぞれの進路に向けより専門的に料理を学び、研究しながら授業にあたる。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	実習に授業に向かう態度や動きを考え行動し、食材や料理に対する関心をもっている。	試食や味の違いについて研究する。 実習中に味の濃い薄いについて調整しているか。 進行状況を把握し、時間をみて動けている。	お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく、商品価値のあるものが作れている。	お客様の満足度の高い料理を提供しようと真摯に調理に向かおうとする姿勢を知識や技術を探求し、行程や強調性をもてている。
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより評価する
教科書、教材など	新調理師養成教育全書　必修編　調理実習、調理実習レシピなど			
授 業 形 態	一斉、班別学習			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	①　一、二年時の復習	お弁当、定食販売	5	・一、二年次に学んだ事を復習し、出汁のとり方、火の入れ方焼き菓子の特性など全般的に理解する。	授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
		②　スイーツ	焼き菓子、ゼラチンの性質			
		③　魚のさばき	握り寿司、お造り		・三枚おろし、姿作りなど調理に見合った魚のさばき方の工程を理解する。	
	5	④　イタリアン	パスタ、リゾット			
		⑤　フレンチ	オーブンや油の温度の扱い方		・イタリアン、フランス料理調理用語を理解する。	
	6	⑥　日本料理	飾り切りや食材の性質を生かした料理	10	・技術のいる飾り切りや食材の旨みの引き出しや火の加減などを理解して調理する。	
		技術テスト				
	7	⑦　大掃除	棚の整理、お皿の管理		・整理整頓して調理師として調理場の整頓とする大切さを学ぶ。	
		⑧　インターンシップ	飲食店での校外実習		・現場の飲食店での研修をへて調理師の大変さ、難しさを体験し現場実習にあたる。また飲食店での仕事の楽しさを学ぶ。	
2	8					
	9	⑨　和洋折衷弁当作り	お客様よりご注文のお弁当販売	10	・お金をいただき料理することの難しさを理解する。	
		⑩　食品衛生、公衆衛生の時間と合同で校外実習	大山乳業、食肉衛生検査所にて校外実習		・生き物の大切さ、衛生管理の大切さを学ぶ。	
	10	⑪　中華　ゲストティチャーを招いて	中華料理の種類と調理法		・講師を招いて中華料理を専門的に学ぶ。	
	11	⑫　西洋料理	ヴィアンド、ポワソン アントルメ		・西洋料理のコース料理の肉料理、魚料理、デザートを専門的に学ぶ。	
	12	⑬　お弁当販売をして技術向上	家族の方、地域の方に料理の販売（高校生レストラン）	10	・高校生レストランの企画、運営、調理、サービス等飲食店経営を通して理解する。	
		技術テスト				
		⑭　大掃除	棚の整理、お皿の管理		・整理整頓して調理師として調理場の整頓とする大切さを学ぶ。	
3	1	⑮　三年間のまとめ	１年生の基礎から２年生の応用、３年生になってから学んだ事を振り返り学習する		・三年間の復習をしながら調理の難しさ、楽しさを実感しこれからの進路や生活に活かす。	
	2					
	3					
備考：			合計	35		

教　科　名	家庭科	科目名	調理理論	単位数	１単位
対 象 学 年	第３学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	食文化の継承や調理師の使命としての知識や役割を学ぶ	美味しいもの、安全なものを考える、人々の健康を維持する	伝統調理技術、調理様式などを受け継ぎさらに新たな調理法を創造する	人々の健康、生命の維持、食の安全など社会的に重い職業である
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察	テストなどによる評価	授業中の取り組みの状態 テストなどによる評価	テストなどの評価

教科書、教材など	調理理論と食文化概論（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	日本の食文化	日本の食文化史について学ぶ	2	日本の食文化の特徴について理解する	提出課題・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
	5		日本料理の食文化について学ぶ	2	日本料理の特徴について理解する	
		中間考査	行事食と食文化について学ぶ	3	行事食について調べ学習を通して理解する	
	6					
	7	レストランサービスの基本	飲食店の種類による接客サービスの違いについて	4	レストランサービスの階級と職務について理解する	
		期末考査	接客者としての意識	3	接客マナーを身につける	
	9	メニュープランニング	メニュープランニングの重要性について	3	メニュープランニングの重要性について理解する 事例を元に理解する	
	10	献立作成 中間考査	献立作成の方法と検討 ・献立とは ・作成方法 ・内容の検討	9	献立を制作にあたり組み立て方（季節、状態、地域）など食事の流れなど基本、また例などを元に学び理解する	
	11					
	12	期末考査				
	1	外食産業の市場規模と動向	・外食産業の市場規模 ・外食産業の売り上げ ・変化する外食産業と社会のニーズ	4	外食産業のニーズの変化について理解する 外食産業の成り立ちを理解する	
	2					
	3					
備考：			合計	30		

教　科　名	家庭科	科目名	課題研究	単位数	１単位
対 象 学 年	第３学年調理	履修形態	必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	家庭の各分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る方法を通して専門的な知識黄と技術の深化、総合化を図るとともに問題解決の能力や、自発的、創造的な学習態度を育てる。				
学習内容の概要	お客様に料理を提供する事をしっかりと考え、より素早く、丁寧に料理をする事を学ぶ。 就職に向けそれぞれの進路に向けより専門的に料理を学び、研究しながら授業にあたる。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	食生活に関する課題を設定し、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。主体的に活動に取り組み、実践的な態度を身につけているか。	課題の解決を図る活動を通して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。	課題解決を図る学習活動を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図っているか。調理のための基本的な技術や衛生観念を身につけているか。	課題解決を図る学習活動を通して、課題の趣旨を理解しその解決のための知識が十分に得られたか。
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより評価する
教科書、教材など	新調理師養成教育全書　必修編　調理実習、調理実習レシピなど			
授 業 形 態	一斉、班別学習			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	オリエンテーション	１年間の授業の流れ 課題研究の進め方	5	課題研究の進め方について理解し、自分の将来につながる課題を設定する	授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
	5	課題解決型学習	課題の設定 課題解決に向けての計画	10	設定した課題の解決にむけて、実施計画を立て、わかりやすくまとめる。	
	6				社会のニーズを考慮し、適切なテーマ設定ができる	
	7	中間まとめ			・調査、研究、実験 ・作品制作	
2	8	課題解決型学習		5	・関係現場等における実習 ・資格の取得	
	9			10	課題を解決するために自ら学び、産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う	
	10		個人課題の解決に向けての実施		課題解決に向けた学びを深める	
	11	課題研究発表			中間発表を行い、それぞれの進捗状況を報告する。それをもとに自分の課題解決型学習の内容を振り返り、取り組み方法の改善に役立てる	
3	12		個人課題についての発表	5		
	1					
	2	まとめ				
	3					
備考：			合計	35		